

令和7年度

沖縄こども調査

高校生向けレポート



沖縄県では、こどもたちの生活状況を把握して、こどもや子育て家庭にどのような支援が必要かを考えるために、毎年「沖縄こども調査」を実施しています。令和7年度は、県立高校（全日・定時）に通う高校2年生の生徒全員とその保護者を対象に調査しました。調査にご協力いただいたみなさま、ありがとうございました。「結果を教えてください」「どう活用されているのか知りたい」などのご意見ほか、制度に関する質問もいただいたので、高校生向けレポートで調査結果の一部や制度をご紹介します。

詳細な分析は、県HPで公開しています。

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/jido/1018770/1031222.html>



沖縄こども調査って？

沖縄県が、2015年から毎年実施している調査です。今年
は、県立高校（全日・定時）に通うすべての高校2年生と
その保護者（1万2,978世帯）を対象に行い、約半数の
生徒・保護者の方から回答をいただきました。



なんで調査をしているの？

家庭の経済状況が、こどもの生活にどのように影響している
かを把握して、必要な支援策を考えるために実施しています。
家庭の経済状況の把握にあたっては、国が使用している
「貧困線」を基準に分析しています（注1）。

| 区分の名称（注2） | | 貧困線をベースにした額 | （参考） 4人世帯の場合の年収 |
|-----------|-------|-----------------------------|--------------------|
| 困窮層 | 低所得層Ⅰ | 138万円未満 （1.0倍未満） | 年収276万円未満 |
| 非困窮層 | 低所得層Ⅱ | 138～207万円未満 （1.0～1.5倍未満） | 年収276～414万円未満 |
| | 一般層 | 207万円以上 （1.5倍以上） | 年収414万円以上 |

注1）厚生労働省「国民生活基礎調査」の貧困線を使用しています。2025年沖縄県調査では、国の貧困線である127万円に、物価高騰の影響を考慮した係数をかけた、138万円を貧困線としています。

注2）高校2年生を対象にした沖縄こども調査は、2016年、2019年、2022年にも実施されています。そのうち、2016年、2019年調査では、困窮層と非困窮層の2区分で分析しました。2022年と2025年調査では低所得層Ⅰ、低所得層Ⅱ、一般層の3区分を用いて分析しています。

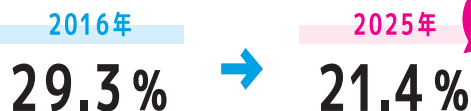
10年の改善点 (2016年→2025年)

■ 困窮世帯の割合

貧困線未満(困窮層、低所得層Ⅰ)の割合は、7.9ポイント減少しました。



貧困線未満(困窮層、低所得層Ⅰ)の割合



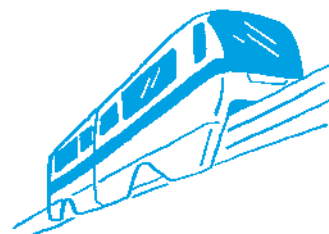
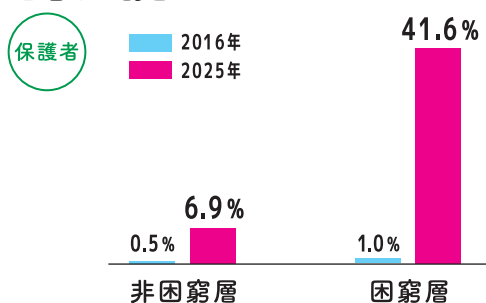
7.9
ポイント
減少

■ 通学費

2016年調査で「通学費が負担」という声が多かったことから、沖縄県では、2018年から通学費を支援する取組を実施しています(所得制限あり)。その効果もあり、通学費がかからない世帯が増えています。

Q. お子さんの1か月あたりの通学交通費(公共交通機関に限る)を教えてください。
※バス・モノレールを利用している人での割合

1か月の通学交通費で「交通費はかからない」と回答した割合



★沖縄県では、以下の2つの通学費支援を実施しています。

アンケートでは、高校生やその保護者から「初めて制度を知った」「自分が対象かわからない」という声もいただいたので、改めてご紹介します。

① 沖縄県バス・モノレール通学費支援

自宅から学校までの区間におけるバス・モノレールの通学費を支援します(低所得世帯対象)。

Q. バス通学支援の申請は途中からでもできますか?

A. 随時申請を受け付けています。

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/edu/1008819/1008843/1025153/1017915.html>



② 沖縄県遠距離等通学費補助金

通学定期券及び通学回数券の1か月あたりの利用額が1万5,000円を超える部分を補助する制度です。世帯収入の要件がありますが、沖縄県バス・モノレール通学費支援よりゆるやかです。

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/edu/1008819/1008843/1021292.html>



■ 高校卒業後の進路の希望

Q. あなたは、現時点で、高校卒業後の進学や就職などの具体的な希望がありますか。

| 高校生 | 進学希望 | | 就職希望 | |
|------|-------|-------|-------|-------|
| | 2016年 | 2025年 | 2016年 | 2025年 |
| 困窮層 | 66.1% | 66.9% | 18.9% | 14.7% |
| 非困窮層 | 78.9% | 80.0% | 8.2% | 7.2% |

Q. お子さんの高校卒業後の進路として、もっとも望ましいと思うもの1つに○をつけてください。

※進学は、「短大・専門学校への進学」「大学への進学」「就職しながら進学」の合計

| 保護者 | 進学希望 | | 就職希望 | |
|------|-------|-------|-------|-------|
| | 2016年 | 2025年 | 2016年 | 2025年 |
| 困窮層 | 65.5% | 70.2% | 16.2% | 14.5% |
| 非困窮層 | 78.3% | 83.1% | 7.0% | 6.8% |

進学を希望する生徒・保護者は増えていますが、進学にかかる経済的な負担を心配する声や、こどもの進学したいという夢を叶えてあげられそうにないという声が多く寄せられました。

高校生 大学に行きたいけど、家の経済的事情で良い大学に行けないということがないようにしてほしいと思います。親が家の経済やきょうだいの進学のお金のことでケンカしたことがあったので、お金のことでケンカしないようにしてほしいです。お金の不自由がなくなるようにしてもらえたら幸いです。

保護者 どんなに仕事をして残業をしても、物価が高くなり、年々子どもと過ごす時間も教育にかけてあげられるお金も減る一方です。働く時間を増やさなければ給料が増えず、子どもや家族と過ごす時間を犠牲にしていることはわかっているのですが、そうしなければ最低限必要な支払いが滞るので、毎日自己嫌悪です。高校に入り成績も上位を目指している我が子ですが、県外の大学への進学も、今の家計の状況や他のきょうだいにかかるお金も考えて諦めてもらうようこれから話をしなければなりません。制度もギリギリ使えない層にいるため、毎日が苦しい状況で正直進学より就職を望んでいる自分もいます…家計でこどもの夢を諦めさせなければならないことに親として情けないです。

国や沖縄県では、経済的な負担を軽減するため、いくつかの支援をおこなっています。

◎ 高等教育の修学支援新制度（大学の授業料減免と給付型奨学金）

2020年から始まった制度で、低所得世帯ほか、多子世帯や私立の理工農系学部に進学する中間層の学生を対象に、大学や短大、高等専門学校、専門学校で対象校となっている高等教育機関の授業料を減免する制度です。詳細は、文部科学省のページをご覧ください。

専門学校も対象になっているところがあります

<https://www.mext.go.jp/kyufu/index.htm>



※沖縄県の進学支援制度は、10ページをご参照ください。

10年経っての課題点

この10年で困窮世帯の割合は減少しましたが、暮らしの状況を苦しいと答える保護者の割合は増えています（高校生は減少）。1か月の食費にかかる金額や、食料・衣料が買えなかった経験も増えており、近年の物価高騰の影響が大きいと考えられます。

Q. あなたの家の暮らしは、経済的に（お金に関して）は、次のどれにあたると思いますか。

| 高校生 | 暮らしの所感 「大変苦しい」「やや苦しい」 の合計 | |
|------|---------------------------------|-------|
| | 2016年 | 2025年 |
| 全体 | 27.7% | 21.4% |
| 困窮層 | 45.2% | 40.3% |
| 非困窮層 | 20.4% | 16.2% |

6.3ポイント減少

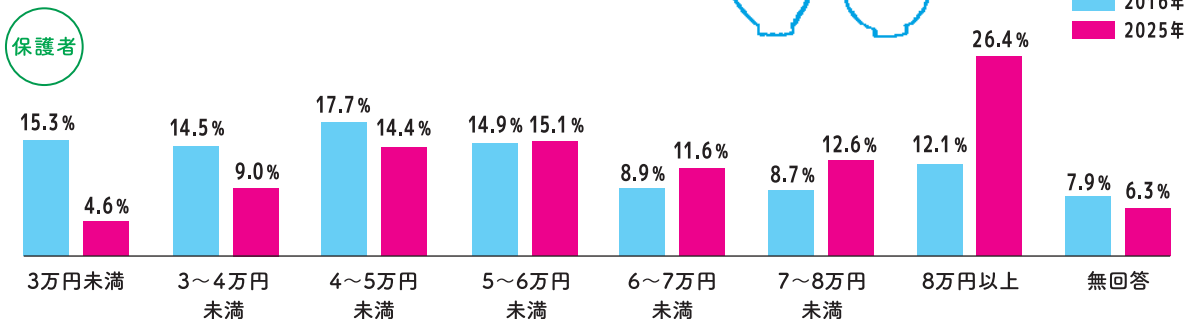
Q. あなたは、ご家庭の現在の暮らしの状況は、どのように感じていますか。

| 保護者 | 暮らしの所感 「大変苦しい」「やや苦しい」 の合計 | |
|------|---------------------------------|-------|
| | 2016年 | 2025年 |
| 全体 | 44.9% | 52.8% |
| 困窮層 | 68.3% | 78.4% |
| 非困窮層 | 35.2% | 45.9% |

7.9ポイント増加

■ 1か月の食費

Q. あなたの世帯の1か月の食費はどれくらいですか。



Q. あなたの世帯では、過去1年の間に、経済的な理由で家族が必要とする食料や衣料（嗜好品は含みません）が買えないことがありましたか。

| 保護者 | 食料が買えなかった経験 「よくあった」「ときどきあった」 「まれにあった」の合計 | |
|------|------------------------------------------------|-------|
| | 2016年 | 2025年 |
| 全体 | 30.3% | 35.3% |
| 困窮層 | 50.4% | 57.3% |
| 非困窮層 | 22.0% | 29.2% |

5.0ポイント増加

| 保護者 | 衣料が買えなかった経験 「よくあった」「ときどきあった」 「まれにあった」の合計 | |
|------|------------------------------------------------|-------|
| | 2016年 | 2025年 |
| 全体 | 39.8% | 43.0% |
| 困窮層 | 61.5% | 67.6% |
| 非困窮層 | 30.7% | 36.4% |

3.2ポイント増加

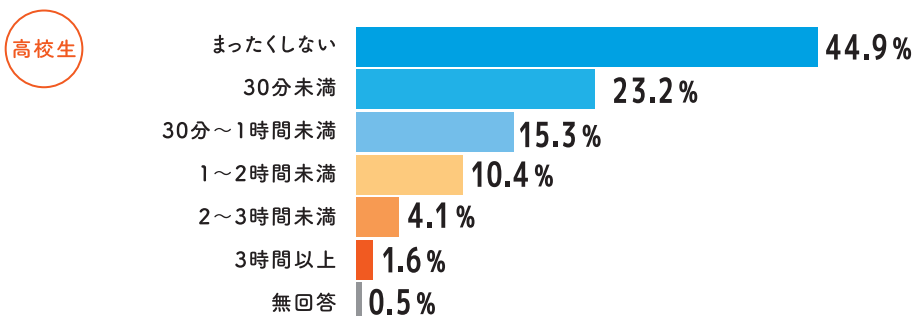
高校生の生活

ここからは、今回の調査結果をいくつか紹介します。



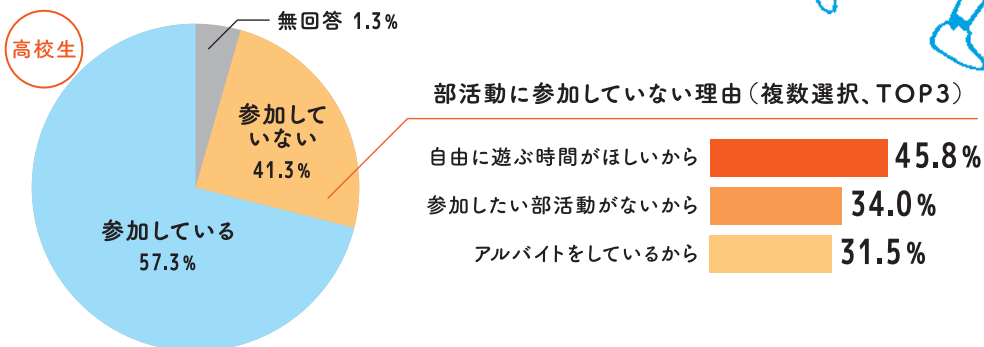
■ 平日の勉強時間

Q. あなたは、平日（月～金曜日）の学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。



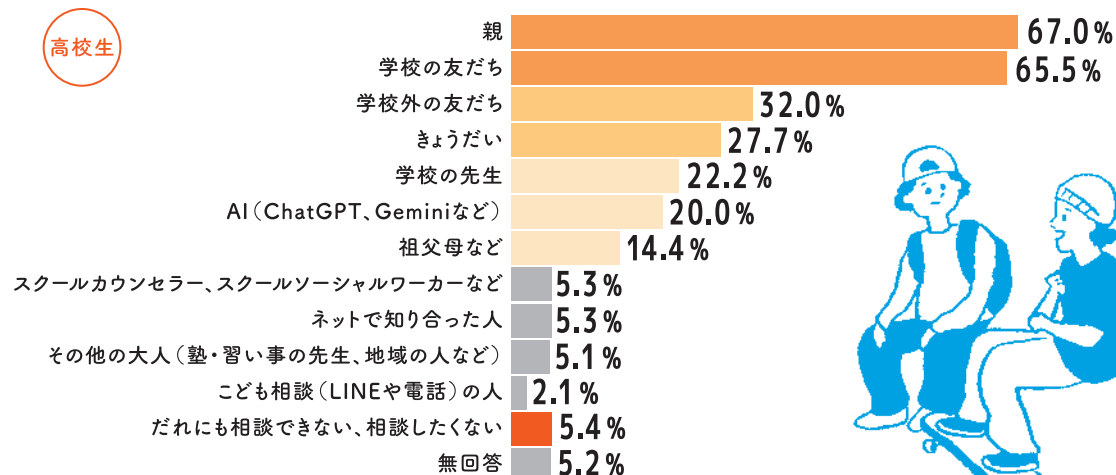
■ 部活動

Q. あなたは現在、部活動に参加していますか。



■ 相談相手

Q. あなたに困っていることや悩みごとがあるとき、あなたが相談できると思うものはどれですか。（複数選択）

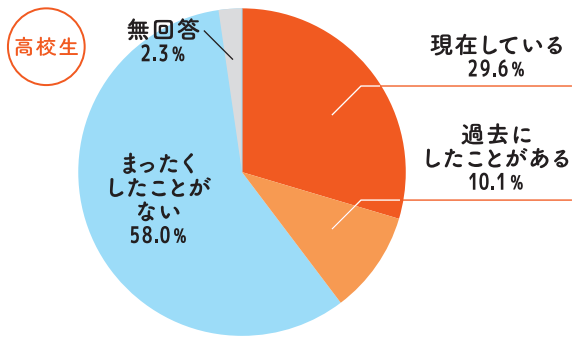


アルバイト

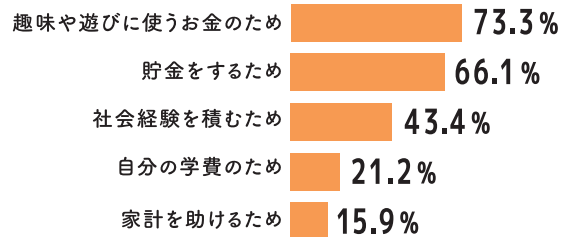


■アルバイト経験

Q. あなたは、高校に入ってから今までにアルバイトや仕事をしましたことがありますか。



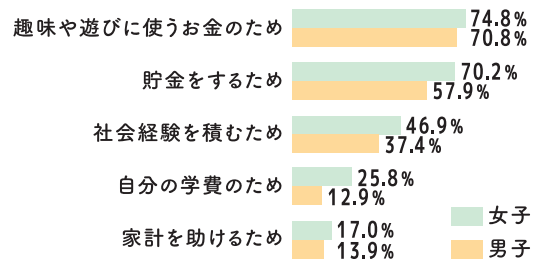
Q. あなたがアルバイトや仕事をする目的は何ですか。(複数選択、TOP5)



男女別で見ると・・・

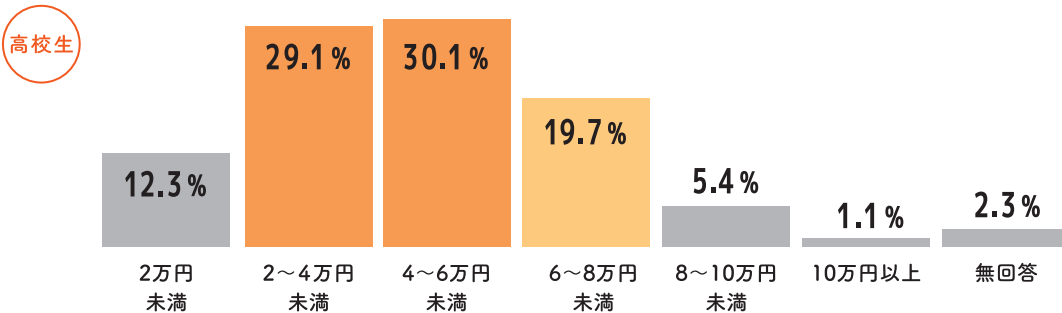
| | アルバイトを「現在している」+「過去にしたことがある」 | |
|-------|-----------------------------|-------|
| | 女子 | 男子 |
| 低所得層Ⅰ | 57.6% | 45.8% |
| 低所得層Ⅱ | 52.7% | 37.2% |
| 一般層 | 37.5% | 24.6% |

Q. あなたがアルバイトや仕事をする目的は何ですか。(複数選択、TOP5)



■1か月の収入

Q. 1か月でどのくらいの収入がありますか。平均的な額を教えてください。



Q. アルバイトや仕事で稼いだお金は何に使っていますか。(複数選択、TOP3)



国や社会への要望

高校生みなさんに、国や社会が子どもたちのために優先的に取り組むべきことについて、いくつかの選択肢から選んでいただきました。

Q. あなたは、国や社会が子どもたちのために優先的に取り組むべきことは何だと思いますか。
あなたにとって重要なことをすべて選んでください。(複数選択)

高校生

高校・大学までの教育を無料で受けられること

1位
66.4%

私の家庭は借金を抱えていて、私が大学へ行くために必要なお金を出すのがきびしい状態です。目指したい職業、夢のためにぜひ、高校・大学の無償化、医療費の無償化をお願いしたいです。

多子世帯の末っ子であるため、上のきょうだいは学費無償や給付型奨学金の恩恵を受け、自由に大学へ進学できたのに、私は対象にならないため、進学したいが就職を視野に入れざるを得ません。財源の確保等で難しいことはあると思いますが、多子世帯の最後の子まで対象を拡大するなど、基準の変更を検討していただきたく思います。私の次の世代は、自由な選択をできる環境が整っているとうれしいです。

本当に困っている子どもの声にしっかり耳を傾けること

2位
64.7%

こどもは大人よりも弱い立場にあって、大人に対して自分の意見を主張するということがなかなか難しいと思う。だから、大人のほうから積極的にこどもの意見を聞くような状況が社会全体でつくられていけば、子どもたちが安心して暮らせるようになると思う。

本当に困っている人は、電話やSNSを使える環境ではないと思う。近隣の住民や周囲の大人がいかに耳をすましているかだと私は思う。見て見ぬふりをしないこと。

いじめのない社会をつくること

3位
61.7%

絶対に取り組んでいくべきだと思う。いじめを受けてきた人を見たり、相談にのったりしてわかったけど、いじめられた人はとても心が病んでいるから、そのような人を生みたくないから、いじめは本当になくすべき。

自分は、幼稚園から小学校にかけて、いじめを受けてきたので、そのような子たちが、いじめの状況を伝えやすい環境、そこから伝えた後にクラスになじみやすい環境をつくってほしい。

4位

59.3%

こどもが犯罪や悪いことに巻き込まれることなく、安全に過ごせること

5位

58.2%

こどもが家族やその他の大人から愛情を受けること

6位

57.9%

自分に適した医療を無料で受けられること

7位

57.8%

すべてのこどもが平等に扱われること

- 8位 こどもが関わることを決めるとき、こどもの意見を聞いてくれること 56.2%
- 9位 不登校のこどもが学べる場所(フリースクールやオンライン講座)を増やすこと 43.3%
- 10位 障がいのある子とない子が共に学ぶことができること 38.5%
- 11位 困ったときに相談しやすい電話、SNS、窓口などがあること 37.3%
- 12位 犯罪を犯したこどもでも、更生して学校や社会に安心して戻れること 30.8%

その他:3.6% とくになし:4.9% 無回答:1.5%

国や社会に関連するご意見は、自由記述でもたくさんいただきました。一部をご紹介します。

大人になったときのほうがいじめ(職場でとか)が多そう。こどもは大人になるから、大人の社会をもっと楽しそうに、キラキラした希望をもてるものだとかこどもが感じられるようになるといいと思う。こどもの社会を大人が良くするより、大人の社会をもっと良くしてください。

こどものことなのに、国の大人たちが何もかも決めていたり、ある一定のこどもたちの声だけを聞いて満足したりしているような印象をもっているの、そういったところをどうにかしてほしいと思った。すべてのこどもが元気に生きられる社会になってほしい。

こどものために社会を変えようとしてくれているのはとてもいいと思いますが、私は日本の将来が心配で、今いろんな国とぶつかりそうになっているのが不安で、自分の将来を考えるのも怖いぐらいです。それで、気持ちが落ちて生きているのがとても怖いです。どうかこどもの将来のためにも国民のためにも平和を保ってほしいです。本当にお願ひします。

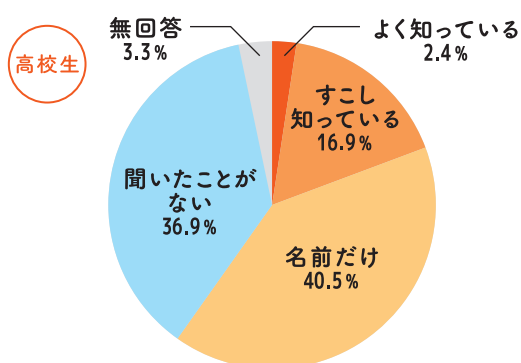
これからの社会では、みんなが平等に暮らせて、同じ授業などを受けられる世の中になってほしいと思ったし、こどもたちが笑顔で暮らせる社会を私たちがつくっていかないと、な、と思った。日本は、物価が高くて、ほしいものが買えないということが多くなっている気がする。それを解消するために、私たち高校生もがんばって勉強するから政治家の人たちもしっかりと取り組んでほしい。

子どもの権利条約

子どもの権利条約は、世界中すべてのこどもがもつ人権（権利）を定めた条約です。1989年に国連総会で採択され、日本では1994年に批准されました。現在、196か国で締結されています。



Q.あなたは、「子どもの権利条約」について聞いたことがありますか。



子どもの権利条約とは？

すべてのこどもたちがもつ人権（権利）を国際的に保障するためにつくられたものです。次の4つの原則をもとに作られています。子どもの権利条約を批准した国は、こどもの権利の実現に向けて取り組むことが求められています。

- ① 生命、生存及び発達に対する権利
- ② こどもの最善の利益
- ③ こどもの意見の尊重
- ④ 差別の禁止

調査に協力いただいたみなさん、レポートを読んでもらったみなさんへ

沖縄県知事の玉城デニーです。

このたび、沖縄こども調査にご協力いただいた生徒の皆さんと保護者の方々に、心よりお礼申し上げます。本調査を最初に実施した2015年調査に回答いただいた当時の小学1年生の多くが、現在は高校2年生となり、今回の調査にご協力いただきました。本レポートを通じて、みなさんとともに歩んできた10年間における成果と課題を一緒に分かち合えたら、うれしいです。

本調査における皆さんの声を受けて、県では、「こども医療費の窓口無料化」や「通学費無料化」などに取り組んでまいりました。今回の調査では、過去と比較して「困窮世帯の割合の減少」や「世帯所得の増加」、「生徒と保護者の進学意欲の向上」、「生徒の交通費の負担減少」など、ポジティブな変化が見られていることから、これまでの取組の成果が表れていると受け止めています。

一方で、「暮らしが苦しい」と感じる保護者は過半数にのぼります。特に食料や衣料を「買えなかった経験」が増加しており、物価高騰等の影響によって主観的な生活実感は厳しさが増していることが明らかになりました。これらの課題に対し県では、令和7年3月に策定した沖縄県こども・若者計画（未来のおきなわっこプラン）に基づき、引き続き施策の充実に取り組んでいきます。

この計画では、「すべてのこどもたちが権利の主体として尊重され、こどもの最善の利益が優先されるとともに、こどもが意見を表明し、その意見が尊重され、社会に参画する機会が確保される『こどもまんなか社会』」の実現を基本理念に掲げています。

今回の調査で、生徒の約8割が「子どもの権利条約」を十分に知らない現状と、社会への要望として「声を聞いてほしい」という声が上位にあることを真摯に受け止めて、こどもの意見表明の機会確保に向けて、より一層取組を推進していきます。

ゆたさるぐとぅ うにげーさびら（よろしくお願ひします）

はいさい ぐすーよー ちゅーうがなびら
（こんにちは ごきげんいかがですか）



支援・制度の案内

高校生向けの支援制度は、県HPにも掲載しています。一部ご紹介します。

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/gakko/1023180/1008766.html>



■ 高等学校等就学支援金（高校の授業料無償化）

2025年度から、公立高校に通うすべての高校の授業料が無償化されています（所得制限なし）。2026年度は、私立高校等への支援拡充が検討されています。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1342674.htm



■ 高校生等奨学給付金

授業料以外にかかる教育費の負担を減らすための制度です（所得制限あり。返済なし）。沖縄県では、県立高校の生徒の約4人に1人が受給しています（令和3年度）。

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/edu/1008819/1008843/1008848.html>



■ 沖縄県通学費支援事業（詳しくは2ページをご参照ください）

■ 無料塾

低所得世帯等の高校生を対象に、大学や専門学校等への進学を目指すための通塾支援をおこなっています。

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/kyoiku/jido/1007994/1007960/1007964/index.html>



■ 高校在学中に利用できる奨学金（貸与）

公益財団法人沖縄県国際交流・人材育成財団

<http://www.oihf.or.jp/>



■ 高校卒業後に利用できる奨学金

（他にも、3ページにて大学無償化の施策等を紹介しています）

沖縄県県外進学大学生奨学金（返済不要）

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/edu/1008819/1008843/1008849.html>

その他奨学金情報

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/edu/1008819/1008843/1008844.html>



■ 悩みの相談窓口

自由記述では、家庭や学校などでの悩みの声もいただきました。

どこかに相談したいと思ったときの連絡先をいくつか紹介します。

沖縄県のこどもとおとなの
LINE相談（クルーム）など

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/kyoiku/jido/1008010/1007989.html>



ヤングケアラー

<https://www.pref.okinawa.jp/kyoiku/seshonen/1018631/1009481.html>



性や体、こころの相談窓口

<https://www.pref.okinawa.lg.jp/kyoiku/jido/1007994/1035385.html>



令和8年3月

 沖縄県子ども未来部子ども若者政策課